

# 放送番組審議会議事録

燕三条エフエム放送株式会社

1、開催年月日 令和8年5月25日(月)

2、開催場所 今回は都合により、レポート提出

3、委員の出席 7名

・委員総数 …… 8名

・提出者氏名…長谷部直美委員長、瀬戸明委員、野崎ミチコ委員、酒井貴輝委員  
堀越巖委員、遠藤愛子委員、諸橋美香委員

・未提出者氏名…西山丈基委員

4、議題

(1)「オレンジゴール」(4月20日(月) 12:30～13:00放送)

出演 高野一美 古俣健次(レギュラーゲスト)

長谷部委員長

① 良かった点

(1) 地域密着性…地元チームを中心とした内容は、地域メディアとしての役割を十分に果たしており、リスナーとの距離感の近さが感じられた。

(2) わかりやすい進行…進行は明るく、落ち着いており、試合結果や用語の説明も適切で、スポーツに詳しくないリスナーにも理解しやすい内容であった。

(3) 応援番組としての一体感…選手・関係者の言葉を紹介することで、リスナーがチームを身近に感じられる構成となっており、地域一体となった応援の機運醸成に寄与している。

② 改善が望まれる点

(1) 変化のある構成…全体的に情報紹介が中心であるため、コーナー構成や音声演出(BGM・効果音等)に変化をつけることで、さらに聞きごたえが増す可能性がある。

③ まとめ

本番組は、地域密着型スポーツ番組として、地元チームの魅力をわかりやすく伝えており、地域メディアとしての役割を十分に果たしている。今後は、内容の深堀や演出面の工夫により、さらに魅力的な番組へ発展することが期待される。

瀬戸 委員

パーソナリティーの高野一美さんとゲストの月1回出演の古俣健次さんのトーク。

今回の主な内容は、「サッカーJ2・アルビレックス新潟が、4月18日、『2・J3百年構想リーグ』で、J2・今治とホームで対戦し、アルビが1-0で勝利。法人設立30周年を記念する試合で、昨年6月以来のホームでの勝ち点3を獲得したということ踏まえたもの。

試合概要:アルビは前半、積極的に前線へボールを出し、両サイドからのクロスを駆使して相手ゴールに迫った。決勝点となった先制のシュートを放つFW モラエスが42分、DF ジェyson・ゲリアが中央でフリーのFW マテウス・モラエスへ縦パスを送った。モラエスはペナルティーエリア付近

まで運ぶと左足を振りぬき、先制に成功。勝利は307日ぶり、それも試合会場はホームであるデンカビッグスワンスタジアムでの勝利で勝ち点3を得た。」

番組全体の評価は、サッカーに興味のない私でも興味を引くような絶妙なトークでよかったと思いました。また、初めて聞く方にもゲストの古俣健次さんのプロフィールについて話があり、この点もよかったです。

番組冒頭の「たった30分の出演のために足を運んでいただいて」と、高野さんが古俣さんに言っていました。言う必要があったのか疑問を感じました。

リスナーからのメッセージ紹介は、選択されたメッセージなのか、試合についてチームを褒めるものばかりでなく、辛口のメッセージもあり、バランスがとれておりよかったです。

トークの中で、テレビではフレームの中だけなので(それぞれの)選手の動きや試合の駆け引きなどを知らない。試合会場の現場を見てもらうことが絶対よいという話もよかったです。放送後半の中で、古俣さんの経歴から30年前(1996年)、現在、そして30年後について聞いていた点は、スポーツ選手に対する意識、評価を良い方向に改めてもらう内容でよかったと思いました。

#### 野崎 委員

私はこの番組を始めて聞きました。特段サッカーファンではない私ですが、古俣さんが新潟出身であること、J1リーグで活躍されていたこと、首の骨折をされてからアルビレックスへ移籍されたこと、アルビレックスの改名の時に在籍されていたこと、数多くの役職をこなしておられるサッカー解説者であることがわかりました。

高野さんと古俣さん、お二人がサッカーの知識を広くお持ちで、それを明るく落ち着いて話されていたのでとても聞きやすかったです。

サッカーファンや「アルビ」関連スポーツファンしか聞かないテーマかもしれませんが、コアなファンがみんな聞いてくれれば、聴取率アップに貢献すると思います。

#### 諸橋 委員

リスナー・サポーターからのメッセージ紹介、古俣さんとの掛け合いのリズムなど、高野さんのスキルが光っており、とりわけサポーターにとっては、各試合を振り返っての古俣さんの解説など、聞きごたえもあり、良い番組構成だと感じました。また、今後に向けての展望や未来へのメッセージは、サポーターではない方にも興味を持っていただくきっかけになると思います。

※私のまわりのサポーターの意見

「アルビ30周年」とはいえ、古俣さんの過去に特化しすぎている印象もあり、古俣さん個人の話よりも、古俣さんから見たアルビの現役選手の話など、「過去」より「今」、今後に向けた話題に期待します。

#### 酒井 委員

全体を通して、高野さん・古俣さんともに、とても聞き取りやすい声質、会話のスピードで安心して聞くことができました。恥ずかしながら「アルビレックス」が30周年ということを知りませんでした。設立時を知る古俣さんの思いあふれるお話は、とても興味深いものでした。

最後のお話で、「良い選手は未来を見据えて海外に出ている、グローバルに羽ばたいている」というお話はとても刺さるものがありました。ものづくりに携わる者として、また、国際的な団体である青年会議所に所属する者として、燕三条地域に通じるものを感じました。燕三条ブランドを世界に広めることは、燕三条地域のプレゼンスを高め、将来を担う子供たちに夢や誇りを与えることに繋がることなのだなと再認識できました。

次に気になった点です。

古俣さんの首の骨を骨折した件で、高野さんの明るい笑い声が少し気になりました。古俣さんの

武勇伝としてレギュラーリスナーからしたら、笑い話になっているのであれば特段問題はないとも思いますが、初聴取の身としては少しびっくりしてしまいました。

頂戴した紙資料を拝見した中で、聴取する前は、バスケや野球などの話題も少しはあるのかなと思っておりましたが、今回は男子サッカーだけの内容でした。たまたま今回は設立30周年、久々の勝ち点3の試合直後だったためサッカーの話題だけだったのか、そもそもゲストさんが古侯さんですので、サッカーのみにフィーチャーした番組なのかなと感じました。

初聴取で毎月の流れがわからない中での感想なので、今後また聴取させていただきたいと思います。

#### 堀越 委員

地域のラジオ局として「アルビレックス新潟」をテーマに、地域のスポーツ振興に貢献することは重要なことだと思います。放送を聞いた後には、リスナーが各自、スポーツの観戦や自分でも運動をするきっかけの一助となることが番組に求められます。むしろ放送の役割です。

そこまでではないにしても、そのことを意識して、番組構成や話題を進めることが重要かと思えます。

(1) ひとちん(高野一美)さんの立ち位置(サッカーの理解度)が曖昧。

『熱狂サポーター』はいいですが、リスナーの代弁者としてゲストに質問するにあたり、ビギナーレベル、中級レベルの設定のあり方が中途半端な印象。そして、ゲストの知見を十分に引き出し切れていない。

(2) 『生』なので、生らしい臨場感が伝わる情報が欲しい。

天気やゲストの服装などの情報をまぶすことが重要かと。全般に言えることですが、「映像」が見えてこない。

(3) 古侯さんのお答え(勝利ゲームの解説など)は十分に内容のあるものでした。

「距離が縮まった、関係性が作りやすい」など。中級レベル以上のリスナーからはもっと深掘してほしいとの声が想像できます。

#### 遠藤 委員

古侯健次さんとひとちん(高野一美)の話、リズムカルで聞き心地がよかった。

今回はサッカー。番組を聞いて、「女子サッカー」「バスケット」「野球」など『アルビ』のチームに関すること、スポーツにもっともっと興味を持ちたいと思います。アルビ応援団の方は、聞き逃すことなく楽しんでいくことでしょう。

(2) その他 次回の番組審議委員会の日程について

次回開催は、7月下旬予定したい。

5、審議機関の答申又は意見の概要を公表した場合におけるその公表内容方法及び年月日

自社放送 令和 8年 5月 25日(月)

書類のエントレンスホールへの備置き 令和 8年 5月 26日(火)

自社 HP 上に記載 令和 8年 5月 27日(水)

6、その他、参考となる事項

特になし。